

令和4年1月1日に思う

謹んで新春のおよろこびを申し上げます

川上村長 栗山忠昭

年頭にあたり、村民皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、今年も実り多い一年となりますようご祈念申し上げます。

世界中を震撼させた新型コロナウイルスが、収束の兆しを見せたかと思いきや、新たにオミクロンと言う変異種が発生したことで、人類はまた新たな局面を迎えています。村では、着々と3回目のワクチン接種の準備を進めていますが、あらためて全人類の英知を結集し、あたりまえの日常を取り戻すことが喫緊の課題であると思います。

昨年、大気中の二酸化炭素の増加が地球の温暖化を招くことを初めて実証したことを高く評価され、ノーベル物理学賞に輝いた真鍋氏が、受賞後のマスコミの会見で「自分は協調性がないので、人のことを気にかけなくてもいいアメリカで、研究に励んだ」という意味の発言がありました。この偉業に全く異論はないし、真鍋氏の生き方に口を挟むものではありませんが、私には少し違和感があります。

言うまでもなく協調性とは「異なった環境や立場にある者が助け合ったり譲り合いながら同じ目標に向かって任務を遂行する」とあります。

かねてより私は、「やや硬直感のある山村や過疎地には、違った価値観や新しい創造力を持った若者との繋がりが不可欠であり、いい意味で村人との”化学反応”が必要だ」と言い続けてきました。

むしろ他者との違いを受け入れ、個性が豊かで尖っている人とのつながり（出会い）こそが人を成長させ地域を活性化させると考えています。

こんな折、「協調性は、世界に例のない日本のお宝である。(中略) コロナウイルス対策や地球温暖化がまったなしの時代に、協調性と言う基盤の上に異質の人の力をも活用し、時代が求める暮らしを地域でつくっていくことこそが、過疎を克服する先進的な地域社会の創造への王道であろうと改めて考えたい」は早稲田大学名誉教授宮口侗^{としみち}廸先生の言葉であります。

わが村は、今年も「協調」の精神を念頭に誰ひとり取り残さない政策に真摯に挑戦したいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。